

山里の絵馬灯籠 復活



㊦ 7年ぶりに柔らかな光がとる絵馬灯籠
㊧ 絵馬灯籠を準備する高知県立大学の学生ら

(写真はいずれも安芸市奈比賀)

安芸市奈比賀 7年ぶり

【安芸】安芸市奈比賀地区の天満宮で17、18日、夏祭りが行われた。高知県立大学の学生23人が参加して伝統の絵馬灯籠が7年ぶりに参道などに飾られ、山あいの集落は優しい光に包まれた。

伊尾木川の中流域にある同地区は90人が暮らす山里。高齢化が進む中、風物詩の絵馬灯籠は2016年を最後に途絶え、新型コロナウイルス禍もあって中止が続いていた。しかし本年度から、市の地

県大生協力し80個

域おこし協力隊や県大生と連携して集落内のイベント復活を目指すことになり、今回の取り組みが計画された。
県大からは地域を学ぶ実習として1年生17人、3年生6人が参加。5月から灯籠に貼り付ける絵を描いたり、住民に教わりながら木製の灯籠を組み立てたりするなど準備を進めてきた。
17日は夕方から、学生らが天満宮から約400m西にある星神社へ続く県道沿いにキャラクターや花の絵が描かれた絵馬灯籠約80個を飾

り付け。日が暮れ始めると灯がともり、地区内外から集まった見物人や初めて見る学生らが「きれいやねえ」「神々しい」とうっとりした様子で眺め、写真を撮って楽しんでいった。

総代の畠山楠義さん(81)は「大學生がきれいな絵をたくさん描いて、手伝いに来てくれて。本当にありがたいねえ」。県大文化学部3年の市原舞鷹さん(20)は「写真で見るとよりきれいで感動した。交流サイト(SNS)で発信し、地域行事の活性化に貢献したい」と話していた。

(宮内萌子)